

# 本学の金融機関への就職希望学生における 簿記検定等の資格取得について

— 学生と金融機関へのアンケート調査結果から —

河 合 晋

**要旨** 本学では、近年、金融機関への就職者が増加している。また、三河地区における製造業の不振が影響して、金融機関への就職希望者が増加傾向にある。そこで、金融機関への就職希望学生を中心に、資格に対する意識調査や相対的な簿記能力等をみた。さらに、就職実績等のある金融機関にアンケート調査をし、採用選考時に求められる資格と学生意識とのギャップについて検討した。本研究の目的は、金融機関への就職希望学生の簿記能力に応じた教育を行うこと、及び同学生の資格取得に対する意識に対し、金融機関が採用選考時に求める資格との間に齟齬があれば、それを反映させた教育を行うことにある。資格取得に対する学生の意識は高く、中でも金融機関への就職希望学生は、日商簿記検定・FPの重視度が比較的に高かった。金融機関への就職希望学生の簿記能力は相対的に高く、日商簿記検定に対する意識は高いが、FPへの優先度は低い結果となった。しかし、金融機関ではFPの優先度が最も高く、金融機関への就職希望学生に対して、就職支援に結び付く資格取得のための教育には、FPをさらに推進していく必要がある結果となった。

**キーワード** 日商簿記検定 ファイナンシャル・プランナー技能士(FP) 金融機関 簿記能力 資格取得

## 1. はじめに

筆者は、平成21年度より本学経営実務科に着任し、簿記・会計分野の講義を担当することとなった。着任当初は、経営実務科の学生の特性もさることながら、学生の簿記能力がどの程度であるかも分からないため、まずは、講義や学生とのコミュニケーションを通して、学生の簿記に対する意識や能力を把握することに努めた。

その最中で、「在学中にどのような資格を取得しておいたらよいか」「就職活動において、どんな資格が有利なのか」という質問が後を絶たなかった。特に、入学したばかりの1年生は、昨今の不況のもとで就職環境が厳しいことは十分認識しており、就職活動において有利とされる資格取得に対して、意識の高い学生が多数存在していた。

筆者は、必修科目である簿記基礎Ⅰ（1年生前期）や簿記検定講座Ⅰ（1年生後期）などを担当しており、学生を日本商工会議所及び各地商工会議所主催簿記検定試験<sup>①</sup>（以下、「日商簿記検定」と称する）

に合格させることが、本学科で課せられた役割の一つであり、学生ニーズに応える手段の一つであると感じた。また、金融機関<sup>②</sup>への就職希望学生には、ファイナンシャル・プランナー技能士<sup>③</sup>（以下、「FP」と称する）の取得を誘導する必要があると感じた。FPに関しては、学生の認知度が低かったため、入学当初から金融機関への就職希望が明確な学生には、その啓発に努めた。

簿記に関する講義は週1～2コマであり、かつ、FPに関する講義は開講されていないことから、指導時間が決定的に不足していた。したがって、検定試験の1ヶ月前や学生の夏季休暇を中心としながらも、ほぼ通期で、日商簿記検定とFPの試験対策補習や個別指導を実施してきた。

後期になってから、筆者は、学生インターンシップの金融機関担当になり、また、専門ゼミナール生のうち、金融機関への就職希望学生が半数近くを占めることとなった。したがって、金融機関を希望する学生の就職支援の観点から、資格取得支援をさらに確実に進める必要が生じている。

本稿では、学生へのアンケート調査から資格に対

する意識を把握し、また、2度のテスト結果から簿記能力を把握し、かつ、金融機関へのアンケート調査に基づいて、金融機関への就職希望学生に対する資格取得支援の在り方を考察する。

## 2. 研究の背景

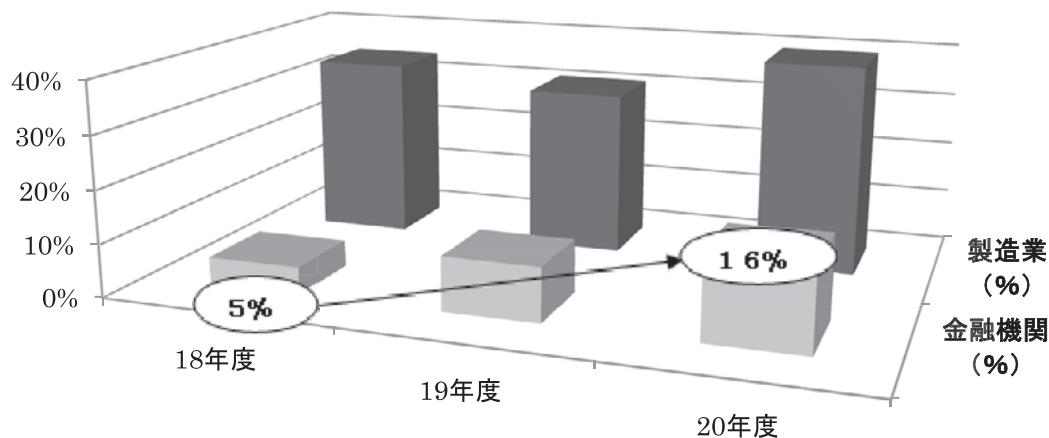
本学が所在する三河地区の地域性から、元来製造業への就職者が多く、過去3年間の製造業就職者割合は30%~40%で推移している。一方、近年、金融機関への就職者が増加している。3年前の平成18年度は5%に過ぎなかったが、平成20年度には16%にまで増加した。過去3年間の就職者割合を金融機関と製造業で比較すると、金融機関への就職者割合が顕著に増加していることが分かる(図表1)。

サブプライム問題に端を発した世界同時不況の波

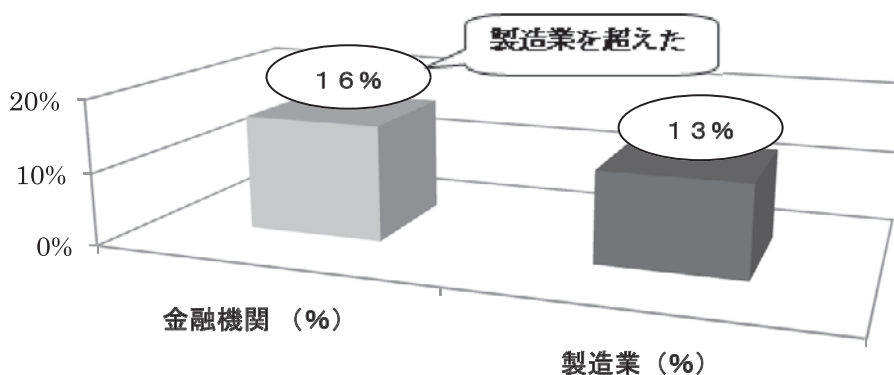
は、平成20年度から三河地区における製造業にもろに影響し、平成21年度(今年度)の金融機関と製造業との比較では、金融機関が16%であるのに対し、製造業は13%にまで減少し、ついに金融機関への就職者割合が製造業を超える結果<sup>④</sup>となった(図表2)。

また、1年生も三河地区における製造業の不振の影響を感じているため、金融機関への就職希望者は増加傾向にある。1年生に対して行った希望就職先業種アンケート調査<sup>⑤</sup>では、製造業21.3%に対し、金融機関は20.0%とほぼ拮抗しており、金融機関に限っては、過去の就職者割合を上回る結果となった(図表3)。近年、本学から金融機関への就職者は増加しているが、本年度1年生の金融機関への就職希望者もその増加傾向の一途にある。

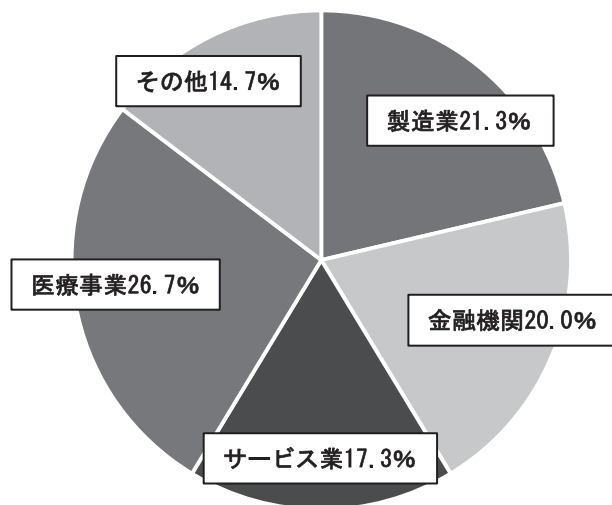
金融機関が採用選考時に重視する資格を学生に積極的に取得させ、求められる人材にマッチした学生を育成することは、教育機関たる本学に求められる



図表1 過去3年間の就職者割合(金融機関・製造業)



図表2 平成21年度の就職者割合(金融機関・製造業)



(注) 医療事業を希望する学生が最大であることも、特徴的である。

図表3 1年生の希望就職先業種割合

社会的責任の一つである。

金融機関への就職活動において有利となる資格については、日商簿記検定などの資格が言われている。しかし、実際に金融機関が学生に内定を出す際、どのような資格を重視しているのか、またはそもそも資格取得を重視しているのかを調査する必要性が生じた。

する意識に対し、金融機関が採用選考時に求める資格との間に齟齬があれば、それを反映させた教育を行うようにすることが本研究の目的である。すなわち、本学経営実務科で近年増加している金融機関への就職希望者に対し、就職支援に結び付く資格取得のための教育をどのように実施すべきかについての考察である。

### 3. 研究の目的

金融機関への就職希望学生は、日商簿記検定が最低限必要と考えている。この点、日商簿記検定を主催する日本商工会議所並びに岡崎商工会議所、さらに岡崎商工会議所を通じて東京商工会議所に問い合わせたところ、本検定の取得に関する企業調査や、本検定に対する学生の意識調査などは行ったことがないという回答であった<sup>6)</sup>。

そこで、本学経営実務科における、

- ① 日商簿記検定などの資格取得に関する学生の意識調査
- ② 簿記能力に関する学生の特性
- ③ 金融機関への就職希望学生の簿記能力の把握
- ④ 金融機関が採用選考時に求める資格などを調査することとした。

そして、金融機関への就職希望学生の簿記能力に応じた教育を行うこと、及び同学生の資格取得に対

### 4. 研究の方法

- (1) 1年生の学生は、日商簿記検定などの資格取得について、どのような意識でいるのかをアンケート調査した。アンケート調査は、本学経営実務科1年生のうち、簿記基礎Ⅰ(必修・1年生前期)、同Ⅱ(選択必修・1年生後期)ともに受講している学生77名の中で、12月3日の講義に出席した学生75名に対し一斉に行った。
- (2) 簿記能力に関する学生の特性と、金融機関への就職希望学生の簿記能力は相対的にどの程度であるかについて、4月と11月実施の2度の簿記能力テスト結果から把握する。
- (3) 過去3年間に本学経営実務科から就職実績のある、または求人をお願いした金融機関に対し、上記(1)とほぼ同じ内容のアンケート調査を行った。アンケート調査は、該当する17金融機関に対し、11月25日～12月15日の間に郵送・無記

名方式にて行った。

研究の目的と方法について図示すると、図表4の通りである。

## 5. 研究の結果

### (1) 資格取得に関する学生意識調査の結果

本学経営実務科の1年生に対して、資格取得に関する意識調査を行った(有効回答率100%)。その際、就職希望先の業種(前掲図表3)も合わせて質問しているため、金融機関への就職希望学生(以下、「金融希望学生」と称する)と、金融機関以外への就職を希望する学生(以下、「金融以外希望学生」と称する)に分け、両者を比較して、金融希望学生の意識の特徴をつかむことにする。

学生への質問は多岐にわたるが、本稿では以下の5つの質問に限定して図示し、その他必要あるものについては補足的に説明を行うこととする。

#### 1) 「採用選考時に重視されと思われる項目(上位5つ)」について

回答の選択肢には、人物重視となる項目と資格の前提である専門知識重視となる項目とを織り交ぜ、採用選考時に重視されと思われる項目の上位5つまでを回答するよう求めた。これは、人物面と資格面がどのようなバランスで採用選考されるか、その学生意識を問うことを意図したものである。

その結果、総じて学生意識はコミュニケーション力・一般常識・信頼性・責任感・協調性などを上位とする人物重視型であった。また、ビジネスマナーが重視されるとする回答が多かった。金融希望学生と金融以外希望学生の相違は、金融希望学生において金融知識が重視されるとする回答が多い点にみられる(図表5)。

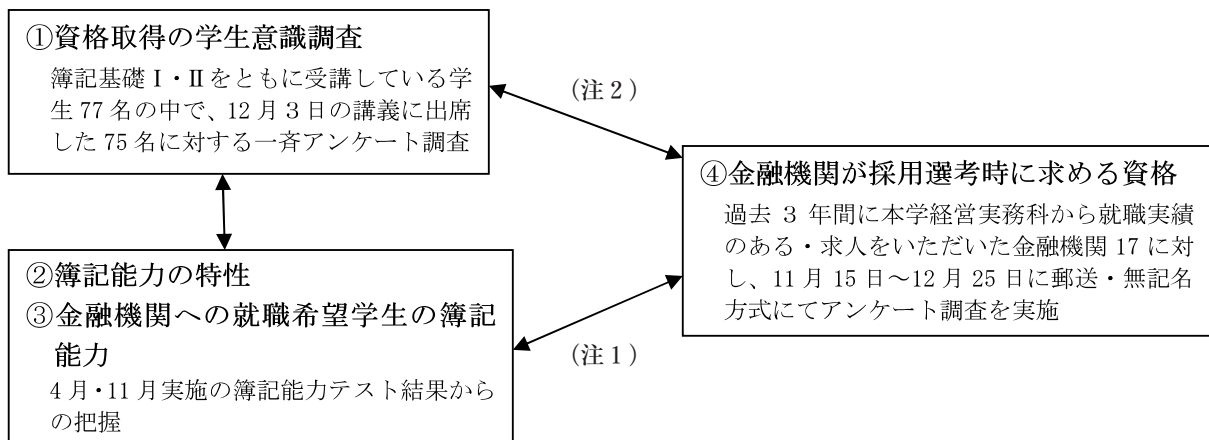
#### 2) 「採用選考時に資格取得がどの程度重視されると思うか」について

金融希望学生は、金融以外希望学生よりも資格取得を重視している。金融希望学生は全員が「かなり重視する」「やや重視する」と回答し、金融以外希望学生の「かなり重視する」18%、「やや重視する」68%を上回る結果となった(図表6)。金融希望学生は資格取得に対する意識がより高いといえる。

#### 3) 「採用選考時に日商簿記検定の資格取得はどの程度重視されると思うか」について

金融希望学生は、金融以外希望学生よりも日商簿記検定を重視している。金融希望学生は全員が「かなり重視する」「やや重視する」と回答し、金融以外希望学生の「かなり重視する」18%、「やや重視する」65%を上回る結果となった(図表7)。

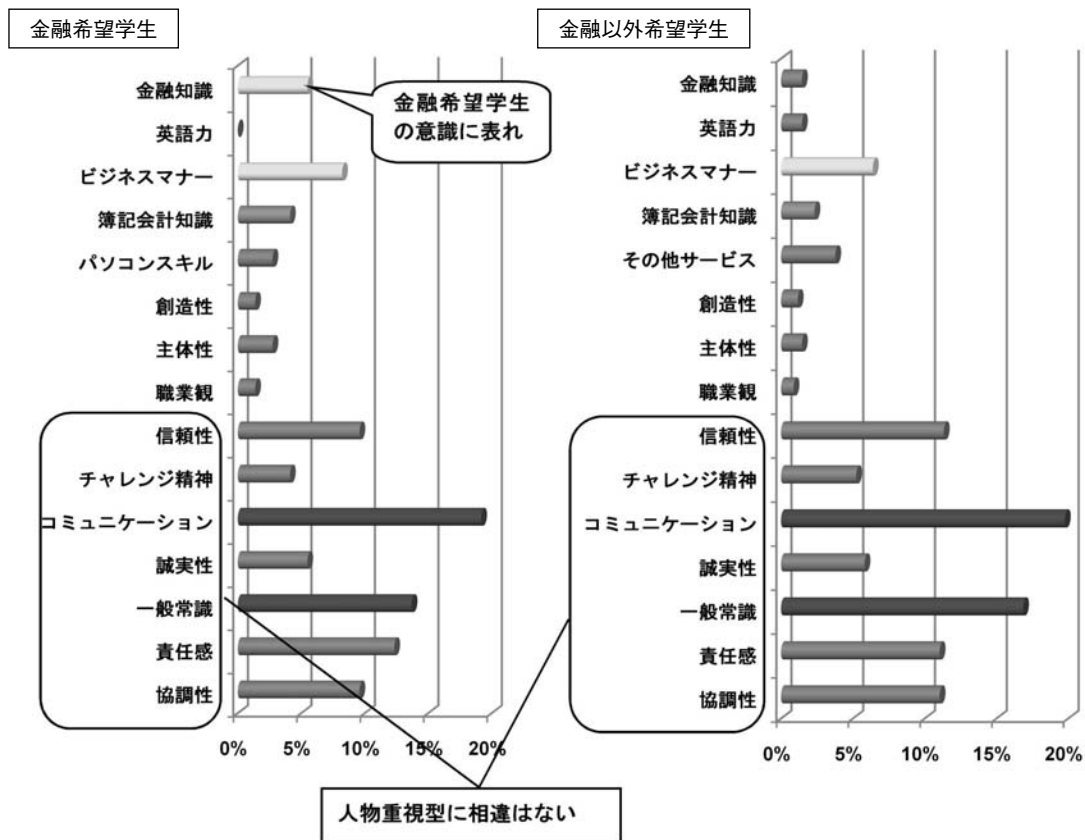
アンケート調査にある資格の中で、金融希望学生での「かなり重視する」の割合が最も高いのは、この日商簿記検定であった。また、他の資格と比較すると、資格取得の重視度と日商簿記検定の重視度はほぼ同じ割合となっているため、金融希望学生の意識では、資格＝日商簿記検定であることが伺える。



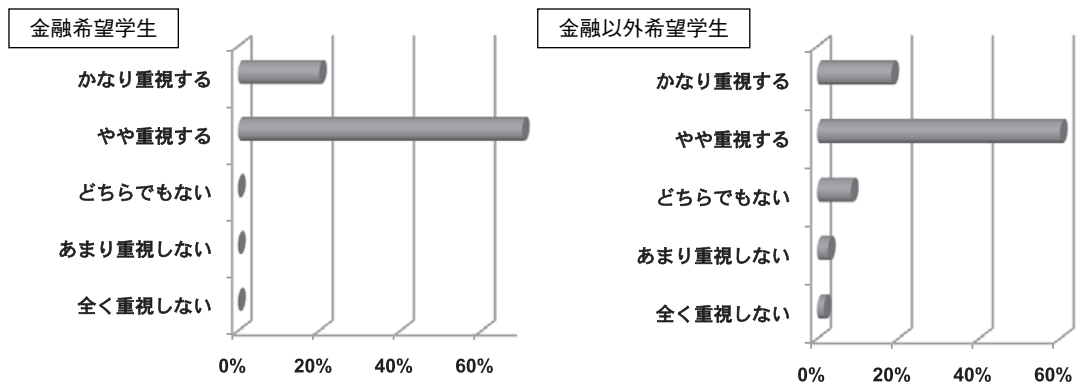
(注1) 金融機関への就職希望学生の簿記能力に応じた資格取得教育

(注2) 学生意識と金融機関が採用選考時に求める資格との齟齬を教育に反映

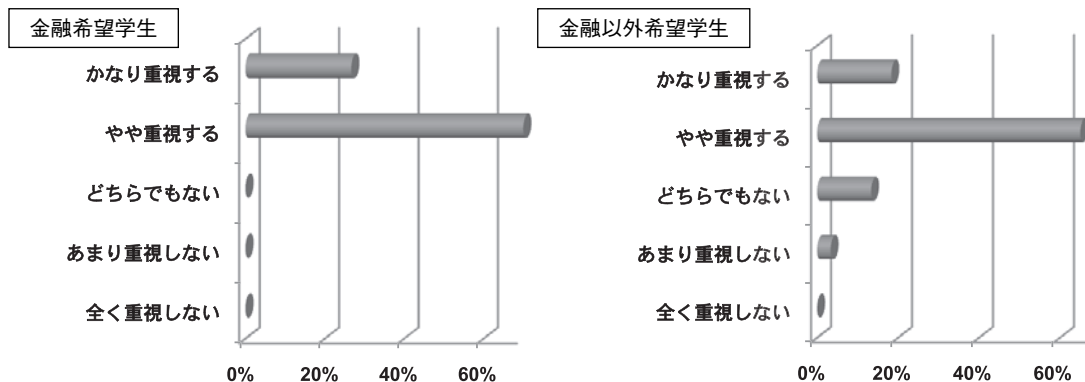
図表4 研究の目的と方法



図表5 採用選考時に重視されると思われる項目（上位5つ）



図表6 資格取得の重視度



図表7 日商簿記検定の重視度

また、「重視する」とした回答者のうち「何級までの取得が望ましいか」については、金融希望学生は、3級が20%、2級73%、1級7%であるのに対し、金融以外希望学生は、3級が52%、2級48%であり、金融希望学生の多くは、採用選考時に求められる資格として日商簿記検定2級と考えているようである。

#### 4) 「採用選考時にファイナンシャル・プランナー技能士（FP）の資格取得はどの程度重視されると思うか」について

金融希望学生は、金融以外希望学生よりもFPをかなり重視している。金融希望学生は「かなり重視する」が13%、「やや重視する」が67%で、「どちらでもない」は7%に留まったのに対して、金融以外希望学生は「かなり重視する」が7%、「やや重視する」が22%、「どちらでもない」は65%という結果となった（図表8）。これは、前述したように、FPに関して学生の認知度が低かったため、筆者が金融機関への就職希望が入学当初から明確な学生に対し、FPの取得を推奨してきた影響であると思われる。

また、「重視する」とした回答者のうち「何級までの取得が望ましいか」については、金融希望学生は、3級が87%、2級13%であった。金融希望学生の多くは、採用選考時に求められる資格としてFP3級までと考えているようである。

#### 5) 「採用選考時に重視されると思われる資格の優先順位」について

本アンケートでは、「パソコン関連」「秘書検定」の資格取得についてもその重視度を質問しているが、これらについては金融希望学生・金融以外希望学生に大きな相違はなかった。そこで、「日商簿記検定」

「FP」「パソコン関連」「秘書検定」について、あえて重視度の優先順位を質問した。

その結果、金融以外希望学生は「パソコン関連」が1位、「日商簿記検定」が2位、「秘書検定」が3位、「FP」が4位になったのに対し、金融希望学生は「日商簿記検定」が1位、「FP」が2位、「パソコン関連」が3位、「秘書検定」が4位という結果になった（図表9）。

本アンケートでは、学生に就職希望先職種も質問しているが、78.4%が事務職と回答しており、総じて学生は「パソコン関連」の資格取得に熱心である。なお、「パソコン関連」で重視する資格に対する質問（複数回答可）では、MOS検定Excelが57%、日商PC2級が47%、日本語ワープロ2級が46%などとする回答であった。

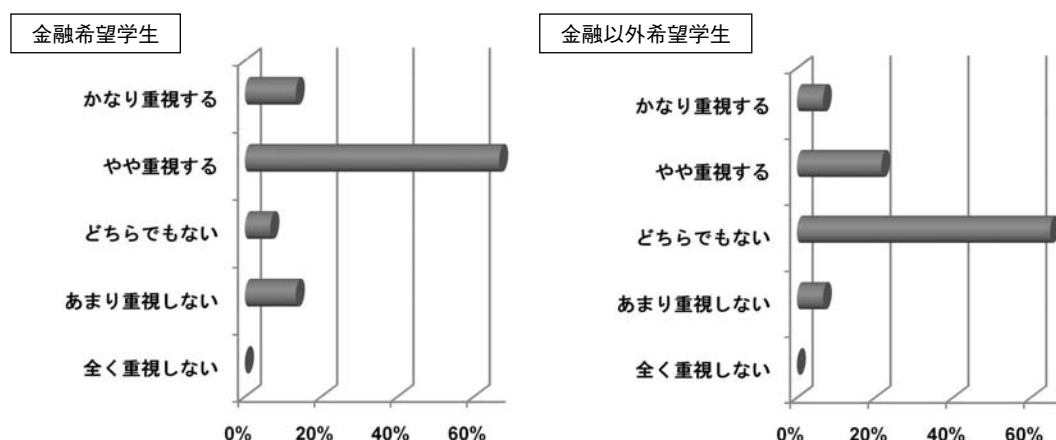
一方、金融希望学生は、優先順位を1位とする回答が「日商簿記検定」47%、「FP」27%であり、明らかに金融以外希望学生とは異なる意識であった。

### (2) 簿記能力に関する学生の特性と金融希望学生の簿記能力

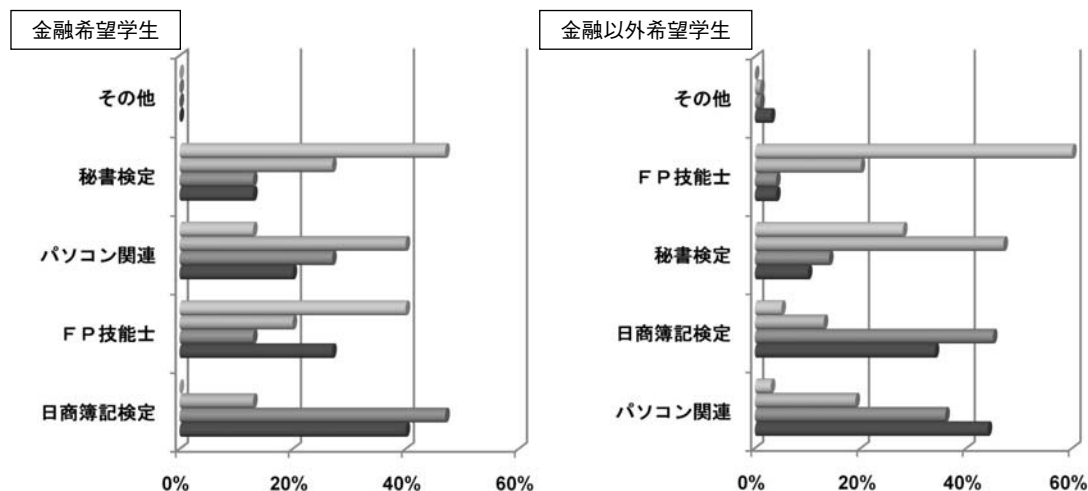
#### 1) 簿記能力に関する学生の特性

経営実務科では、簿記基礎I・同IIともに、上級者と初心者の2クラス制にしている。そのクラス分けをするため、4月と11月に簿記能力テストを実施している。その偏差値の結果を回帰分析で示したのが図表10である。

回帰分析の結果、寄与率は0.87で、相関係数は0.93と非常に高い相関を示した。しかし、t検定を行うと、10%水準で有意とは言えなかった。

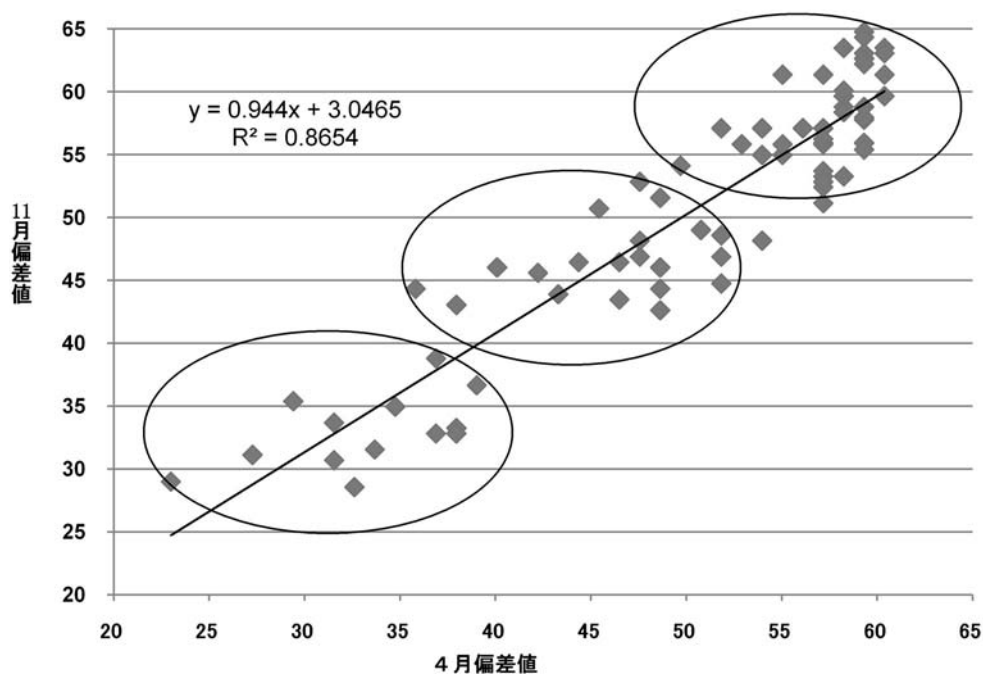


図表8 FPの重視度



(注) 各資格4つの横棒は、下→上へ1位→4位と回答したものの割合を示す。金融以外希望学生の「その他」には、英検・TOEIC・医療事務管理士とする回答があった。

図表9 重視する資格の優先順位



(注) 寄与率0.87、相関係数0.93、t検定により10%水準において優位ではなかった。

図表10 4月と11月の簿記能力テストの偏差値

4月のテストは、普通科からの入学生にとっては簿記自体が初めてであるため、初講から3回で簿記一巡の手続きや、損益計算書・貸借対照表の仕組み、基本的な仕訳などを講義した後に実施した。商業科からの入学生にとっては、基本的に満点がとれる内容である。11月のテストは、それまでの講義を踏まえた内容で、仕訳を中心に処理量の多い問題とした。4月のテストに比べれば極めて難易度の高いテストである。t検定の結果より、たまたまであることは

否定できないが、概ね学生は、入学時におけるそれぞれのレベルに応じて簿記能力をつけていったといえるのではないかな。

散布図から判断できる簿記能力に関する学生の特徴は、図表10のように上位・中位・下位の3グループに分類される。

## 2) 金融希望学生の簿記能力

では、金融希望学生の簿記能力は経営実務科の中で相対的にどの位置にいるかをみてる。図表11の

左図は金融希望学生の偏差値である。4月テストの偏差値の平均が57.0で、11月テストの偏差値の平均は57.4である。金融希望学生は、簿記能力が相対的に高いことが分かる。

### (3) 金融機関が採用選考時に求める資格のアンケート調査結果

過去3年間に本学経営実務科から就職実績のある、または求人をお願いした金融機関に対し、学生に対するのとはほぼ同じ内容のアンケート調査を行った(有効回答率64.7%)。

その結果に基づき、5.(1)での金融希望学生の意識アンケート結果と比較して、金融機関が採用選考時に求める資格を把握し、両者に齟齬があるか否かを検討する。

金融機関への質問は多岐にわたるが、本稿では5.(1)と同様の5つの質問に2つの質問を加えたものに限定して図示し、その他必要あるものについては補足的に説明を行うこととする。

#### 1) 「採用選考時に重視する項目(上位5つ)」について

金融機関は、金融希望学生の意識以上に人物重視である。金融希望学生では、コミュニケーション力・一般常識・信頼性・責任感・協調性を上位とする人物重視型であったが、金融機関は、コミュニケ

ーション力・誠実性・責任感・協調性がほぼ同じ割合で上位とする人物重視型であった。金融希望学生ではそれほど高くない職業観や誠実性が、金融機関では高いことにも特徴がある。

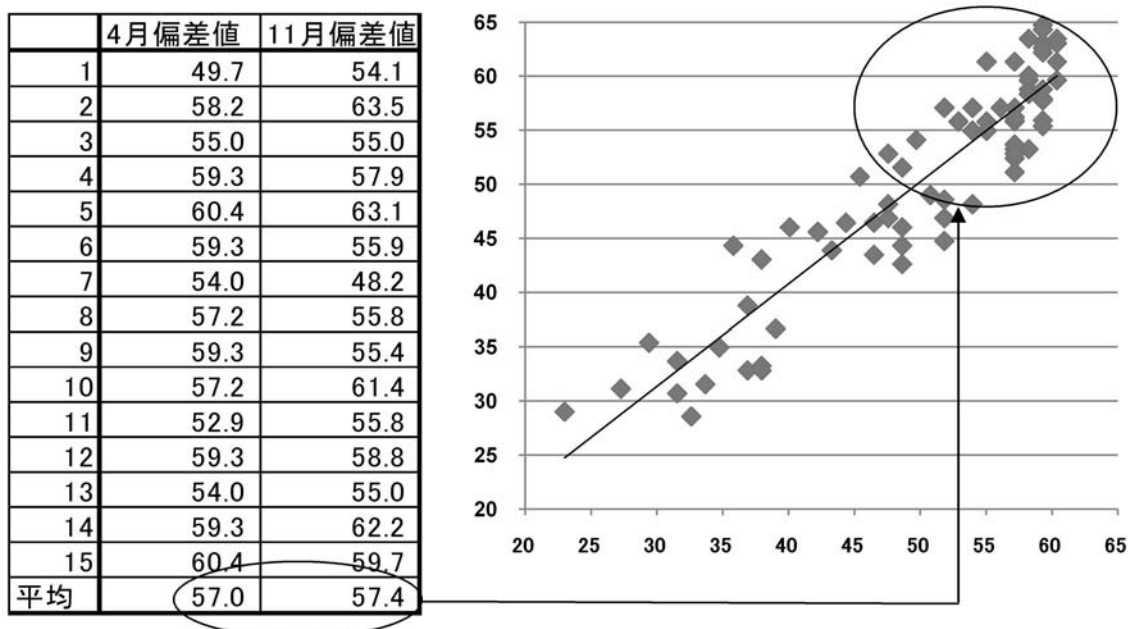
また、金融希望学生では、金融知識が重視されるとする割合が多い点に特徴があったが、金融機関ではそれが求められていない結果となった(図表12)。

#### 2) 「採用選考時に資格取得をどの程度重視するか」について

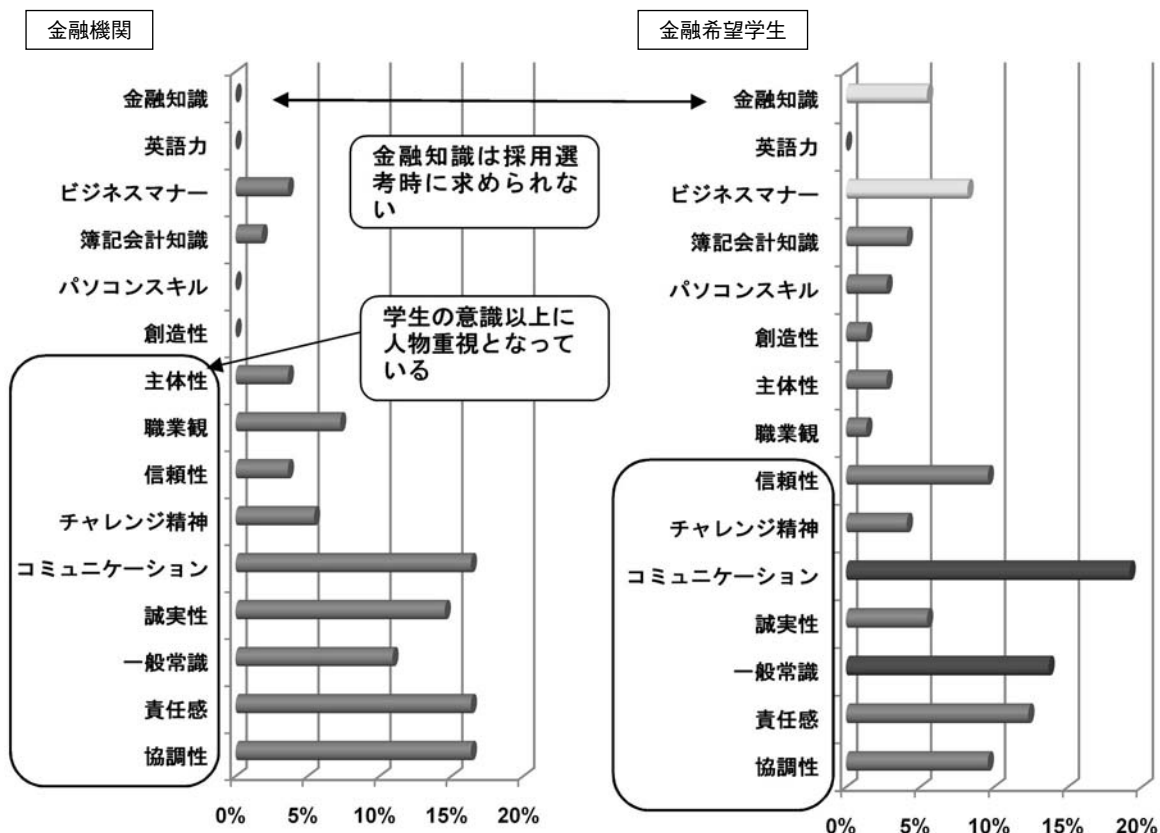
金融機関は、金融希望学生が考えているほど資格取得を重視していない。これは、図表12からも分かるように、金融機関での人物重視の表れである。「どちらでもない」36%、「あまり重視しない」18%であり、金融機関によっては採用選考時の資格の重視度は低い。しかし、「やや重視する」は「どちらでもない」と同じ36%であり、「かなり重視する」金融機関もあることから、採用選考時に資格が全く必要ないわけではない(図表13)。

#### 3) 「採用選考時に日商簿記検定の資格取得はどの程度重視するか」について

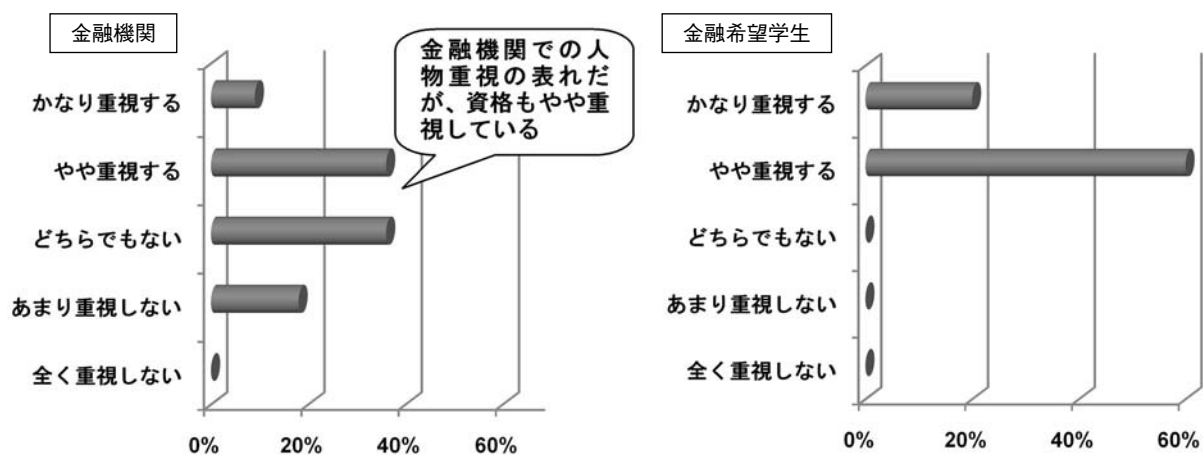
金融機関は、金融希望学生が考えているほど日商簿記検定を重視していない。金融希望学生は、全員が「重視する」と回答しており、さらに、資格=日商簿記検定とイメージする学生が多い。一方、「どちらでもない」36%、「あまり重視しない」18%とす



図表11 金融希望学生の簿記能力



図表12 採用選考時に重視する項目（上位5つ）



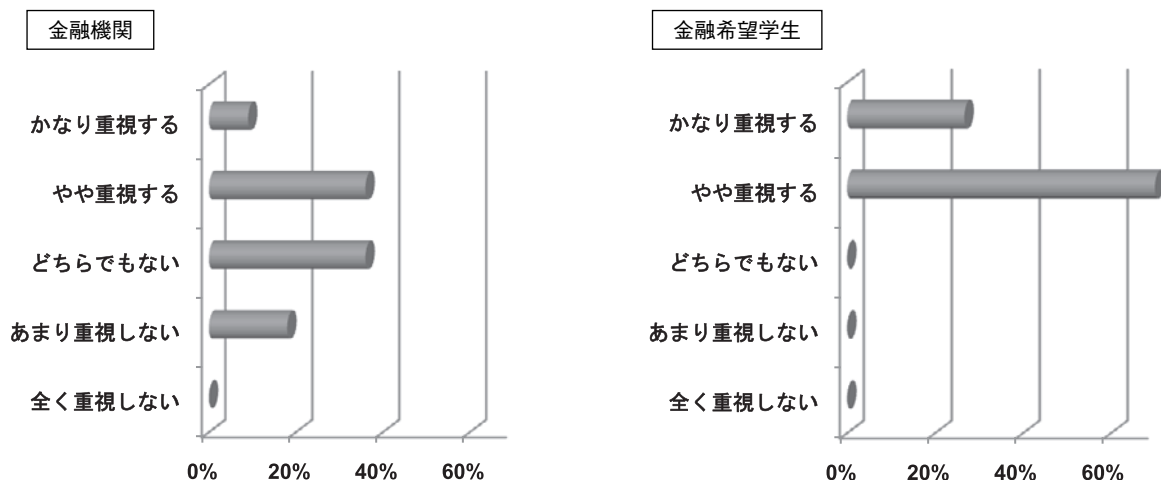
図表13 採用選考時における資格取得の重視度

る金融機関が存在する（図表14）。

これを個々の金融機関の回答状況でみると、採用選考時の資格の重視度を「どちらでもない」と回答した金融機関のうち、日商簿記検定は「やや重視する」と回答した金融機関が1つある。また、採用選考時の資格の重視度を「やや重視する」と回答した金融機関のうち、日商簿記検定は「かなり重視する」と回答した金融機関が1つある。さらに、採用選考時の資格の重視度を「やや重視する」と回答

しながら、日商簿記検定は「どちらでもない」と回答した金融機関が1つある。この最後の金融機関は、資格の中でFP重視を鮮明に回答された金融機関であった。

上記の金融機関を除けば、採用選考時の資格の重視度と日商簿記検定の重視度は、金融機関ごとに一致していた。日商簿記検定の重視度については、金融機関ごとの資格重視度によって温度差があり、学生意識が正しいか否かは、どこの金融機関を希望す



図表14 採用選考時における日商簿記検定の重視度

るのかによるところが大きい。

また、日商簿記検定を「重視する」と回答した金融機関のすべてが、採用選考時には3級までしか求めておらず、金融希望学生の多くが2級までとしていたのに対し、そこまで求められていない結果となった。

ただし、「どちらでもない」「重視しない」とした金融機関であっても、入行（庫）後は3級まで奨励するとした金融機関が36%、2級まで奨励するとした金融機関が27%という結果であった。

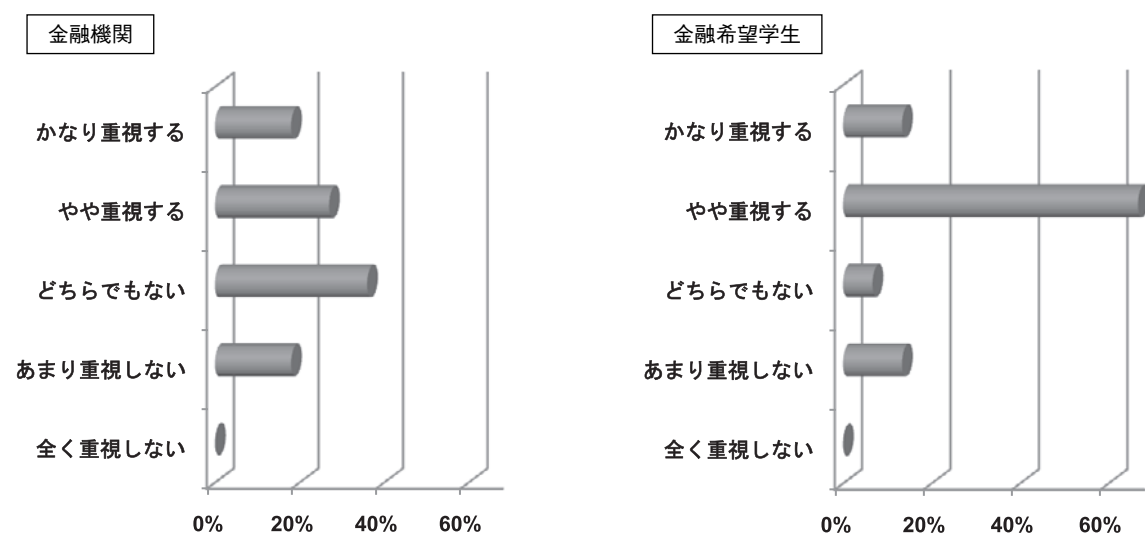
4) 「採用選考時にファイナンシャル・プランナー技能士（FP）の資格取得はどの程度重視するか」について

金融機関は、FP の重視度が相対的に高い。本ア

ンケートでは、パソコンに関する資格と秘書検定資格も調査しているが、その両者と比べて「かなり重視する」が18%、「やや重視する」が27%とはるかに高い割合を占めた。また、日商簿記検定と比較すると、「かなり重視する」「やや重視する」を合わせた割合は同じ水準であるが、「かなり重視する」ではFP が日商簿記検定より10%程度高い結果となった（図表15）。

入学当初から金融機関への就職希望が明確な学生に対し、FP の取得を推奨してきた影響で、金融以外希望学生と比べ、金融希望学生の FP に対する意識は高いが、学生の意識以上に金融機関は FP を重視していることが分かる。

FP を「重視する」と回答した金融機関のうち、



図表15 採用選考時におけるFPの重視度

採用選考時に3級まで求める金融機関が80%で、2級まで求める金融機関が20%であった。

また、「どちらでもない」「重視しない」とした金融機関も含め、入行（庫）後は3級まで奨励するとした金融機関が10%、2級まで奨励するとした金融機関が90%という結果であった。

金融希望学生の多くが、採用選考時にFP3級まで求められるとしていることは正しい意識であろう。しかし、採用時はともかく入行（庫）後は、回答のあったほぼすべての金融機関で2級まで奨励されることとなる。

#### 5) 「採用選考時に重視する資格の優先順位」について

本アンケートでは、学生に対するアンケート調査と同様に、「日商簿記検定」「FP」「パソコン関連」「秘書検定」について、あえて重視度の優先順位を質問した。その結果、金融機関は「FP」が1位、「日商簿記検定」が2位、「秘書検定」が3位、「パソコン関連」が4位という結果になった（図表16）。

金融機関では、優先順位の1位をFPと日商簿記検定で占めることとなった。金融希望学生は、FPよりも日商簿記検定の方に高い意識がある。金融機関は、採用選考時において、金融希望学生の意識に比べ、よりFPの資格を求めている結果であった。

#### 6) 「採用選考時にその他の資格取得で望ましいもの」「入行（庫）後その他の資格取得で奨励されるもの」について

最後に、その他の資格で採用選考時に望まれる、

すなわち取得していれば有利に働く資格について、金融機関と金融希望学生に質問した。学生は、そのすべての資格内容まで周知しておらず、資格内容を説明してからのアンケートであって、とりあえず望まれそうだとする回答も散見されるため、参考に留めたい（図表17・18）。

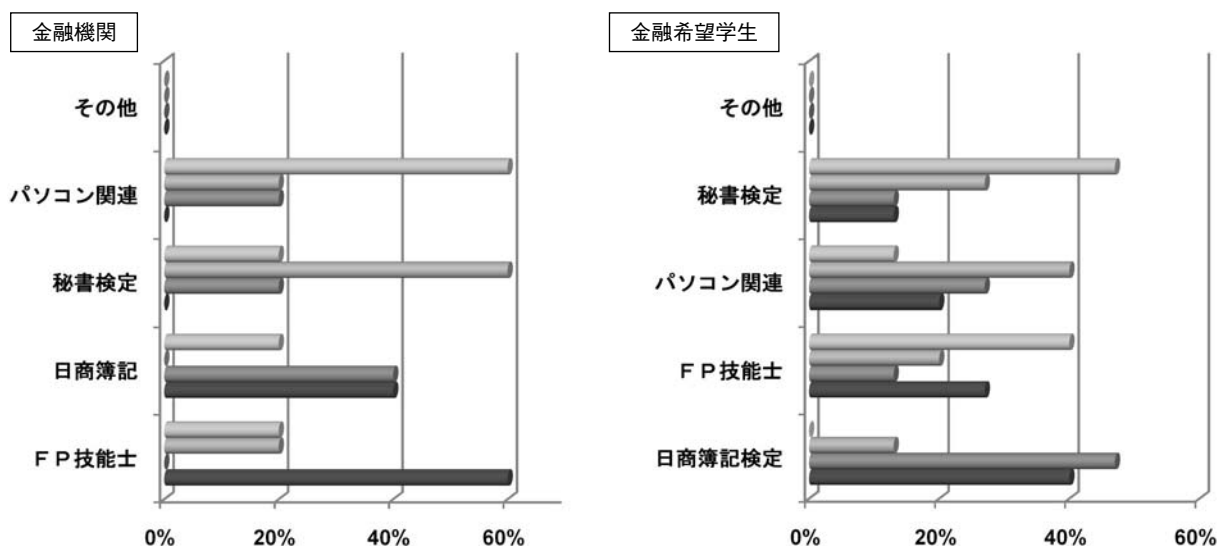
採用選考時にその他で望まれる資格については、数行（庫）の金融機関にインタビューをさせていただいた結果、「金融窓口サービス技能士」と「証券外務員Ⅱ種」については、“入行（庫）後、必ず取得を求めるものであり、必ずしも採用選考時に考慮するものではないが、取得しているのであれば、金融機関への就職を強く希望している意思をアピールできるものである”旨のご回答をいただいた。

なお、金融機関の回答のみをみると、採用選考時に重視する資格と、入行（庫）後に奨励する資格には、個々の金融機関でタイミング的にずれがある。

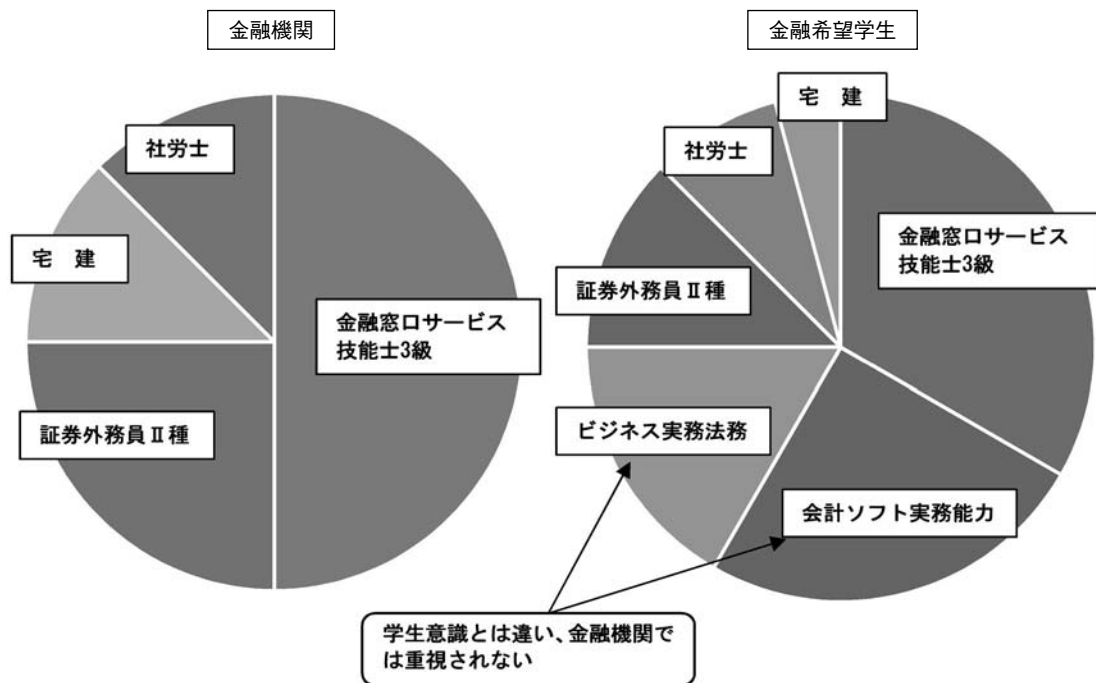
## 6. 考察と今後の課題

本研究の目的は、本学経営実務科で増加している金融機関への就職希望者に対し、どのような教育を実施すべきかについてである。

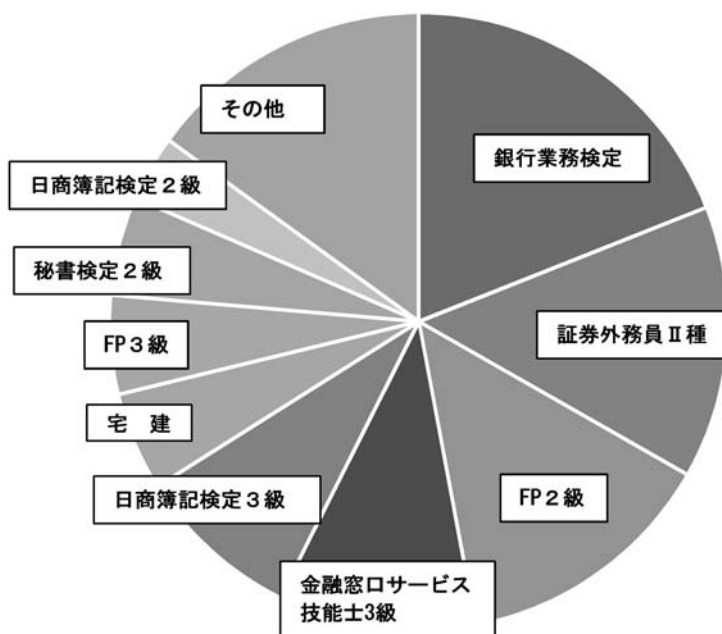
具体的には、金融機関への就職希望学生の能力に応じた教育を行うこと、及び同学生の資格取得に対する意識に対し、金融機関が採用選考時に求める資格との間に齟齬があれば、それを反映させた教育を



図表16 採用選考時に重視する資格の優先順位



図表17 採用選考時にその他望まれる資格



(注) 銀行業務検定は、実務経験がなければ受験資格がないため、学生は原則受験不可能である。「その他」は、MOS検定（Word・Excel）、生保・損保募集人資格、サービス接遇検定2級、ビジネス実務マナー検定2級、金融窓口サービス技能士2級、金融窓口サービス技能士1級である。

図表18 入行（庫）後に奨励する資格

行うようにすることであった。

日商簿記検定については、学生の意識ほど金融機関が重視しているわけではないが、半数近くの金融機関が重視しているのは事実である。金融希望学生

は全員少なくとも3級を取得する必要がある。また、金融希望学生の簿記能力は相対的に高く、1年生時点で3級までの取得者が多く存在するため、入行（庫）後を考えて、学生時代に2級までを取得することが

望ましいと考える。

金融希望学生に対する日商簿記検定については、既に対策済みである。講義以外に試験対策補習や個別指導を実施したため、昨年実施の2回の検定試験で、3級取得者が金融希望学生の70%を超える結果となっている。今年2月実施の検定試験で100%になる予定である。また、2級取得者は、金融希望学生の33%であるが、これを少なくとも70%程度にする必要がある。

簿記の講義は週1コマであるため、決定的に指導時間が不足する。カリキュラム上の再検討に加え、現実的にはさらに補習等を実施する対策を講じることになるであろう。また、週5コマを超える補習等の実施で教員の負担が大きくなっているが、この問題については学生から要望が生じたサークル活動を進めて対処している。

FP技能士資格については、金融機関と金融希望学生に乖離がみられた。金融希望学生の意識以上に金融機関はFPを重視している。採用選考時にFPを重視する金融機関では、3級までの取得を求めており、金融希望学生は3級を取得する必要がある。さらに入行（庫）後を考えると、学生時代に2級までを取得することが望ましい。

入学当初の学生にFPの認知度は低かったが、FP3級取得を推奨したため、日商簿記検定に比べ難易度が高いにも拘わらず、現在数名が合格している。日商簿記検定の指導に加え、FPの資格指導をさらに推進していくことが課題となる。

さらに、証券外務員Ⅱ種、金融窓口サービス技能士3級の資格取得も奨励し、金融希望学生の就職活動において、他の学生との差別化を図ることができる教育も必要であると考ええる。

本研究の今後の課題としては、FPをカリキュラムとして構築すること、もしくは補習時間を増加させることによる教育的効果を考察することである。また、金融機関に入行（庫）後の教育カリキュラムを調査し、その先取り教育を本学経営実務科で実施していくことが必要と考えている。

なお、本研究は、金融希望学生になるべく早く情報提供したい意思が働いたため、本学経営実務科に關係する金融機関に対して行った調査となり、その対象は限定的となった。したがって、統計解析を行

うまでもない調査対象数であったが、今後は、調査対象となる業種を広げた研究にするべきであると考える。

## 注

- (1) 日本商工会議所及び各地商工会議所が実施する検定試験であり、平成21年6月検定試験の合格率は、3級41.2%、2級25.5%、1級10.2%である。合格率は検定時の問題の難易度により若干の変動がある。なお、簿記検定には、その他全国経理教育協会（全経）・全国商業高等学校協会（全商）・全国産業人能力開発団体連合会が実施するものもあるが、本検定は受験者約20万人で最も代表的な簿記検定試験である。
- (2) 本学の就職実績などに鑑みて、本稿では金融機関を銀行・信用金庫・信用組合に限定している。
- (3) 金融財政事情研究会及び日本ファイナンシャル・プランナーズ協会が主催する試験であり、平成21年5月試験の合格率は、3級46.7%、2級20.9%（学科）などである。受験者は約7万人で金融機関従事者が多いとされる。
- (4) 平成21年12月25日現在の割合である。なお、製造業の減少分は、医療事業で吸収し、全国平均を上回る水準で内定率を維持している。
- (5) 後述（第4節）でのアンケート調査方法による。
- (6) 平成21年11月21日に質問させていただき、同年11月30日にご回答をいただいた。
- (7) 「本学本学科の学生に対して、資格取得に関するアドバイスがあれば教えてください」とした自由記述は以下の通りである（一部抜粋）。
  - ・資格取得に関し、当社においては採用過程では重視していません。しかしながら、入社後は証券外務員・FP・銀行検定など多数の資格取得を義務付けており、その観点から在学時に資格取得に励むことは結構かと存じます。それを踏まえたご指導をいただければと思います。
  - ・資格取得を目的に単に知識を詰め込むのではなく、実務を想像し、活用することを想定して欲しく思います。ご指導のほど、よろしく願います。申し上げます。
  - ・取得そのものが目的ではなく、業務に活かせる

ことができる資格取得であることを教育していただけたらと思います。

- ・即戦力・高卒との違いの明確化（社会勉強だけではダメ）・コミュニケーション力・FP力の強化
- ・入庫後は、各種の資格取得が必須となりますので、学生時代より自己啓発に取り組む姿勢を養って頂きたいと考えます。先生には、学生が自己啓発に取り組み始める動機づけが重要であると考えますので、よろしくご指導願います。

#### 参考文献

- ・脇山昇『簿記会計教育論第2版 基本問題の探究』中央経済社、2009年